

実践ノート

看図アプローチを活用した看護学校での教科外活動実践 —協同で学ぶ意味を考える—

山口奈津子¹⁾・田中伸子¹⁾・山下雅佳実²⁾・鹿内信善³⁾

YAMAGUCHI Natsuko TANAKA Nobuko YAMASHITA Akemi SHIKANAI Nobuyoshi

キーワード：看図アプローチ・協同学習・新しい発見・多様な価値観

I. はじめに

教科外活動は、豊かな感性を育み、社会の一員としての自覚を高め、主体性、協調性、創造性を養う目的をもつ。これまでの教科外活動では学生たちは仲間と時間や場所を共有し、仲間同士の距離や関係を深めていた。しかし2年前からは、新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、対面での授業が制限され、教科外活動はそのほとんどの中止を余儀なくされた。感染を拡大させないためとは言え、教科外活動を経験させないで、社会の一員としての自覚を高めたり、豊かな感性を育んだり創造性を養ったりする等の目的達成は難しかった。そこで、どうにか教科外活動を対面で実施できるよう模索した。そして、入学時から対面学習や学外での活動が十分に実施できていない状況の2年生を対象に、看図アプローチを用いた教科外活動を実施した。本稿ではこの活動を振り返り、協同で学ぶことの意味を明らかにする。

II. 活動設計のための学生観と指導観

II-1 学生観

本活動の対象は、看護師2年課程（昼間定時制）A看護学校2年生に在籍する35名である。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入学時からクラス全員での対面授業が少なく、学外での活

動経験についてはそのほとんどが中止されるか、企画されたとしても学内の活動に振り替えて実施していた。他の学校と同様に、対面授業で思考力や表現力を育成する機会が制限されてきたクラスである。しかし、団結力や明確な課題に対しての意欲は高いクラスである。

II-2 指導観と活動目標

オンライン授業では、ブレイクアウトセッションやMicrosoft Teamsのチャネル等を活用しながら協同学習も実施してはいたが、自分の思いや疑問や不安などを他者へ表現しにくい状況であった。このような状況を受け、筆者らは、学生たちが自分の考えを伝え、他者の思いを傾聴しながら共感する態度を養いたいと考えていた。また、「協同」することから「発見」や「創造」が生まれる機会にもしたいと考えていた。

このような考えに基づき、次の内容を取り入れることにした。

- ・通学路を歩くことで、普段は見えていない視点で町を理解する。（発見）
- ・主体的で対話的な活動となるよう、看図アプローチを活用して協同学習を行う。（協同）
- ・自分の思いや考えを表現する。（創造）

以上から、次の4つの活動目標を設定した。

1) 長崎県立看護学校
2) 中村学園大学短期大学部
3) 天使大学

活動目標

- 1) 普段は通り過ぎて気づかない場所を歩いてみることで新たな発見をする。
- 2) 協同学習によって新たな発見をする。
- 3) 協同学習をとおして多様な価値観にふれる。
- 4) 自分で物語を創ること、他者が創った物語を知ることで創造性を養う。

Ⅲ. 教科外活動の実際

Ⅲ-1 ビジュアルテキストの準備

【①グループ構成】 入学からこれまでに交流の少なかった人だと自覚した人を選び3～4人のグループを構成してもらった。参加した学生は35名である。

【②町の探索】 学校周辺の町を探索し、各自、普段は通り過ぎて気づかない場所やもの、ことを見つけ「気になったこと」というテーマで写真を撮ってもらった。（1時間 20分）

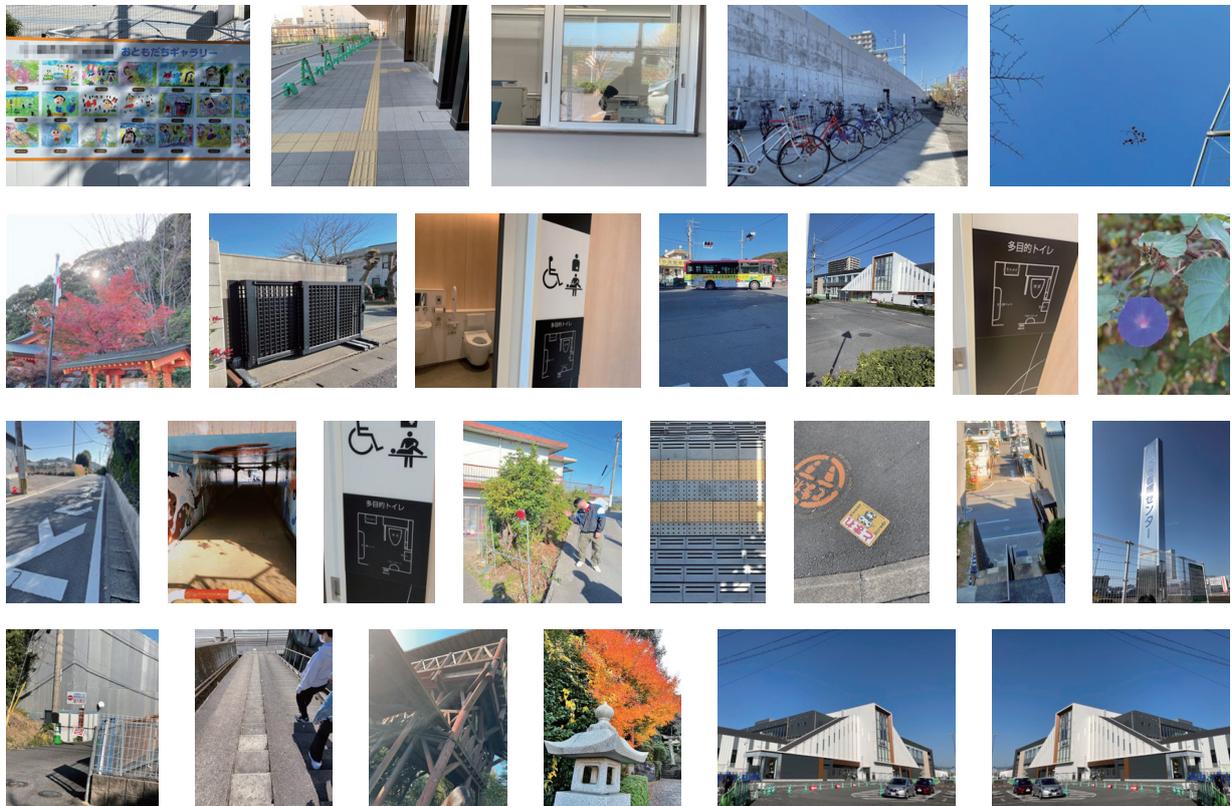
【③写真の共有】 撮影した写真の中から「誰かを支えている」と思う写真をひとり1枚以上選択し

てもらった。それを Microsoft Teams の OneNote 内にアップロードしてもらい、共有させた。

【④写真の選択】 OneNote に貼り付けられた写真の中から、「誰かとつながっている」と思う写真を選択してもらった。それを各自のワークシートへ貼り付けさせた。



ワークシート



学生が撮影した写真（一部モザイク処理。右下の2枚は反転した写真ではあるがどちらも学生が選択し物語の創作まで至っている。）

III-2 ビジュアルテキストの読解

考える準備として白紙のA4用紙を1枚ずつ配付し、個人思考はもちろん、メモに使うてよいことを伝えた。また、ここからは次のスライドを用いて行った。

スライド 発問・指示 1

写真には何が映っていますか。

映っているものを5つ以上書きましょう。

個人思考 3分間
グループ内で集団思考 7分間
(①番さんからラウンドロビンで)

スライド 発問・指示 2

これは、誰を支えていますか。

考えたことを書きましょう。

個人思考 5分間
グループ内で集団思考 10分間
(②番さんからラウンドロビンで)

スライド 発問・指示 3

これは、誰とつながっていますか。

考えたことを書きましょう。

個人思考 5分間
グループ内で集団思考 10分間
(③番さんからラウンドロビンで)

スライド 発問・指示 4

あなたがしてもらっていることは何ですか。

考えたことを書きましょう。

個人思考 5分間
グループ内で集団思考 10分間
(④番さんからラウンドロビンで)

スライド 発問・指示 5

選んだ写真を使って、これまでに考えたことを基に、誰かを支える物語を作ってください

→→→ ワークシート①の**説明文の欄**に書いてください。(電子データですよ～) **600字程度**

→→→ **テーマ**を10文字で作りましょう。

個人思考15分→集団思考10分(①番さんからラウンドロビンで)

本実践は感染対策として体育館で実施をしたため、上掲の発問・指示は、学生が遠くからでも見えるようにスライドで提示した。また、必ず、個人思考の後、ラウンドロビンで集団思考させるためにタイマーで時間を図りアナウンスしながら実施していった。発問・指示5では、ワークシートの説明文の欄にオリジナルの物語を創造させ、ラウンドロビンで共有した。

III-3 物語の創造

学生35名全員がオリジナルの物語を作成することができた。また、【④写真の選択】で、写真1を選択した学生が5名いた。写真1を基にして学生たちが書いた作文を、「物語の想像例」としてあげておく。



写真1 (一部モザイク処理)

学生1の物語

幼稚園の子供たちは、ある日、自分の大好きなものを絵に描きましよう先生たちから

お話がありました。

こちゃんは、大好きなものがありすぎて、何を描こうかなかなか決まりませんでした。1つ目の大好きなものは、お母さん、2つ目はお父さん、3つ目は妹、4つ目は弟、5つ目はネコのサンタ。幼稚園の先生もみんな大好きだし、お友達の小春ちゃんも、さくらちゃんも、ひまりちゃんも、みんな大好きで、「先生、私、描けません」と描くことを諦めてしまいました。先生は、「こちゃん、どうして描けないの？」と優しく尋ねると「大好きなものがたくさんあるから、選べない。」と言いました。先生は「こちゃんは、大好きなものがたくさんあるのね。じゃあ、みんな描いちゃえばいいんじゃない？大好きなものはたくさんあった方が嬉しいよね。大好きって言われた人も嬉しいよ」と言いました。こちゃんは絵を描くことが大好きだったので、そう言われると、「じゃあ、10個くらい描いてもいい？」と話し先生は「いくらでも描いていいよ」と言いました。こちゃんは、大好きなものをたくさん描いて、家に持ち帰り家族に見せました。お父さん、お母さんは、その絵を見て、子供の成長を感じ、感動しました。また、幼稚園の先生やお友達に支えられているとも感じ、たくさん感謝をしました。

学生2の物語

これは、ある少女の体験談である。

私が幼い頃・・・。

私は生後6ヶ月で保育園に通っていた。両親は共働きである。同学年では、私が1番に保育園に通っていたので、次々と同い年の子供達が保育園に入り、私はお友達を沢山作った。時にはお友達や先生とけんかをしたり、大きな怪我をして先生や両親を困らせたりと、とてもやんちゃであった。しかし、とても明るい性格だった私は、その分みんなから人気があり、先生も私を頼り、とても充実した子供時代であった。子供の頃に描いた両親の似

顔絵は、写真とともに現在も棚に飾っているとのこと。子供の頃の思い出は今も鮮明に覚えており、とても刺激的だったと感じる。保育園で会ったお友達は今現在も連絡を取り頻りに会い、繋がりがあがる。

そのような出来事をたまに思い出し、いつか自分の子供が楽しい子供時代を過ごせるようお願いしたい。

学生3の物語

夏の思い出に残っていることを子どもたちに絵で表現してもらいました。カブトムシを山にとりに行ったり、お友達と仲良く遊んだりなど楽しく過ごせたようです。A君は、「雨の日には傘をさしてカエルを見つけ、一緒にカエルときいろい傘をさして帰りました。緑のカエルで僕も長靴が緑だったので気が合うなと思いました。」と先生に伝えてくれました。Bちゃんは、「カラフルなトンボを見つけたよ、赤と黄色のトンボ、緑のトンボ、青のトンボもいたよ〜。」と絵を描きながら先生に伝えてくれました。C君は、「カブトムシをお父さんにとりに行ったよ、そしたらたくさん山にいてね、捕まえて家に持って帰ったよ。専用のね、ゼリーも買って育てるところだよ。」と笑顔で伝えてくれました。Dちゃんは、「〇〇ちゃんの家に泊まりに行ったらネットフリックスで映画みたんだよ、あとはね、〇〇ちゃんと〇〇ちゃんのお母さんとお父さんと一緒に、たこ焼きパーティーしたんだよ。また今度おいでって言われた！」と嬉しそうに話していました。他の園児もたくさんの夏の思い出があり、楽しく過ごされたようです。子どもたちの絵を見て癒され、元気を与えてくれるとともに、思ったことや感じたことを素直に表現することの大切さを改めて感じました。純粋な子どもたちの自由な絵心はとても素晴らしいものでした。

学生4の物語

この地域では、地域の人との繋がりが少ない所でした。ある日、〇〇幼稚園の園児のみんなが、描いた絵が街に大きく貼り出されました。幼稚園は保育園と違い、保護者が園に迎えに行くことはなく、バスでの送り迎えが多いため保護者が子供たちの絵を見る機会は少なかったです。ですが、このように貼り出されたことにより、我が子の成長を感じられるようになりました。そして地域住民の目にもとまり一緒に並んで絵を見ていたら、地域の人達の交流が増えていきました。こどもの絵は心の癒しになるものであり、それにより地域も穏やかになり、笑顔が増えていきました。この幼稚園児ひとりひとりの絵が、地域の人の笑顔を増やす大切なシンボルになって行きました。地域の中での交流が少なかったこの街ですがいつしか、近所同士での助け合い、地域内での交流なども増えていき、街に活気と笑顔が溢れる街になっていきました。この絵は今でも園児の保護者の他にもこの地域に住む方々の心の支えとなる存在となっています。子供の絵などは知らない子の絵でも可愛くて心の癒しになります。嫌なことがあった日でもこのような可愛い絵を見ると心が癒されて、さっきあった嫌なことが忘れられることもあると思います。皆さんの住んでいる地域も、穏やかで笑顔あふれる街であるといいですね。

学生5の物語

〇〇学院の幼稚園の年長さんのクラスで「おともだち」をテーマに絵を描いてもらいました。その絵は、〇〇学院の近くに展示されると聞いて幼稚園児は張り切っています。子供たちの両親や家族も展示されるのを楽しみにしていました。幼稚園の先生たちも今年はどんな作品が出るか毎年楽しみにしています。

この作品のパネルは毎年同じ時期に〇〇学院の近くに展示されているため、地域の住民

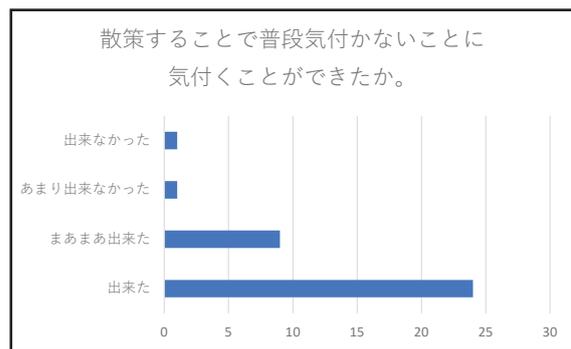
たちも楽しみに待っています。地域には高齢者が多く、散歩の途中にこのパネルを見るのを楽しみにしている人たちも多く、自分の孫やひ孫の絵を見ているようだ毎年好評です。この地域住民の高齢者である友蔵さんは最近妻が他界し、1人暮らしになってしまいました。それまでは、妻と毎日散歩をするのが日課でしたが、最近は家の中に閉じこもることが多くありました。ある日、隣のおじいちゃんに散歩がてら絵を見に行こうと誘われて、久しぶりに散歩にでかけました。全く乗り気ではありませんでしたが、パネルの前に着き、沢山の絵を見て友蔵さんはとても温かい気持ちになりました。そこには自由で沢山の色を使った可愛い絵が飾ってあり、1人暮らしで寂しかった友蔵さんを癒してくれました。

それから、友蔵さんは今まで妻と散歩に行っていた時間に1人で散歩をするようになり、少しずつ元気になっていきました。

IV. 考察

教科外活動の目標に沿って考察していく。

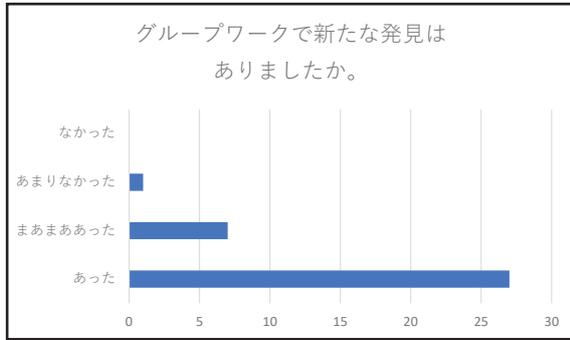
「1) 普段は通り過ぎて気づかない場所を歩いてみることで新たな発見をする。」について



教科外活動後の学生アンケート結果より、普段は気づかないことに気づくことが「出来た・まあまあ出来た」と回答した学生は33名(94%)であった。「ゆっくり歩いて写真を撮ることで気づきがあった」「一人で歩くより、みんなと歩くと新たな発見があった」など、普段は歩かない通学

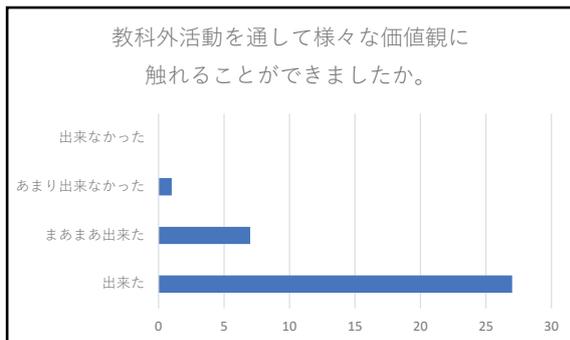
路を仲間と一緒に「歩く」ことで新たなことに気づく機会となったと考える。

「2) 協同学習によって新たな発見をする。」について



グループワークで新たな発見が「あった・まあまああった」と回答した学生は34名（97%）であった。「普段話さない人とグループワークすることでいろんな考え方があるのを知った」「同じグループの人について知ることが出来た」など、グループ活動で他者の考え方に触れただけでなく、協同学習をすることで、一緒に学ぶ仲間についても新たな発見となっていたことがわかった。

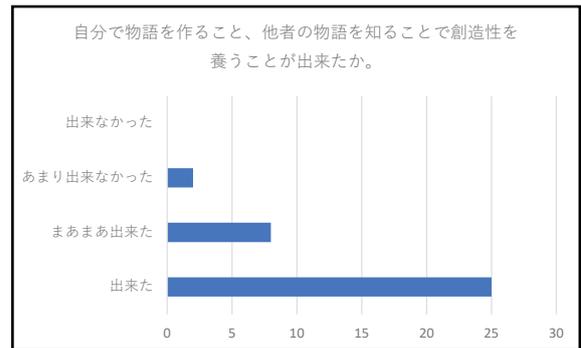
「3) 協同学習をとおして多様な価値観にふれる。」について



「教科外活動を通して、様々な価値観に触れることができたか」という質問に「出来た・まあまあできた」と回答した学生は34名（97%）であった。自由記載の感想欄には「共有することで自分では見つからなかったことも知った」「物の見方に対する感性が人それぞれ違い面白かった」などの記述があった。今回、発問ごとに個人思考の後、ラウンドロビンで集団思考させた。発問ごとに読

み解き、自分の意見を共有し、感心されたり、賞賛される体験をすることで、仲間の意見や考えを聞くときに、しっかり聞くことにつながり、自分一人では気づくことができない新たな価値観を形成することにつながったのではないかと考える。

「4) 自分で物語を創ること、他者が創った物語を知ることで創造性を養う。」について



最後の発問・指示で、一枚の写真を使って物語を創ってもらった。自分で物語を創ることや、他者が創った物語を知ることで創造性を養うことが「出来た・まあまあ出来た」と回答した学生は33名（94%）であった。「たった一枚の写真でも様々なことも連想することができた」「話を作る事で想像力をふくらませる良い学習となった」との学生の感想があった。学習者同士の読解結果を共有することで自分一人では成し得なかった豊かな学習も可能になる（鹿内，2015）。発問・指示ごとに読み解き、その結果を共有したことで一人では想像できなかった豊かな発想へとつながり、一枚の写真から物語を創造することができたと考える。自分が選択したビジュアルテキストを読解し、毎回違う角度から外挿を重ねることにより写真の中の見えない誰かを熟考する機会となり、具体的場面を創造することにつながったのではないだろうか。また、今回の教科外活動では発問ごとに個人思考と集団思考を繰り返す協同学習を取り入れた。これまで自分の考えを話すのが得意ではなかった学生が、自分自身で選択したビジュアルテキストを用いて考えを伝えることにより、頷きや称賛など共感してもらっている態度に触れ、自分の意見に自信がついたのかもしれない。そして、

自分の考えに共感した相手に対しては興味・関心が湧き、自分もまた、相手の話を聞く姿勢や態度についても変化をもたらしたと考える。

今回の実践では、ビジュアルテキストの準備を学生に行ってもらった。毎日利用する通学路であっても、仲間とともに会話をしながら同じものを見たり感じたりできた校外での時間は、協同学習を行う前準備としてグループのコミュニケーションを円滑にする良いきっかけとなったのではないかと筆者らは感じている。入学からこれまでに交流の少なかった人とグループとなり緊張もあっただろうが、探索後の楽し気な様子からレクリエーションまたは、アイスブレイク的な役割もあったのではないだろうか。そして、看図アプローチを用いた協同学習では、発問・指示ごとに「えー？」と、どよめきが起こり、学生にとって考えもつかない発問を行うことによって、一生懸命に悩み考え、課題に取り組む姿を見ることができた。これに関連して鹿内（2015）は次のように述べている。「より発展性のある協同学習をつくり出していくためには、『え!?!』を感じさせる協同学習ツールを取り入れていかなければなりません。(p.62)」思いがけない発問が学生の想像を広げる大事な協同学習ツールになることを本実践でも再確認できた。

V. 課題

今回の実践を通じて、結果・考察を踏まえ、以下の課題があった。

1. 今回の実践では、完成した物語の共有をグループ単位でしか行えていない。クラスでの全体共有を行った場合には、この結果が変化するのか、またどのように変化するのか検討する必要がある。
2. 入学からこれまでに交流の少ないメンバーで協同学習を行った。顔見知りではないメンバー構成で本活動を行っても、同じ結果が出るのであれば、入学時などのクラス作りで他者理解の部分で有効な活動となる。この活動が他者理解のどの部分で有効となるのか「気づき

の詳細について具体的な検討が必要である。

引用・参考文献

- 藤井愛美・山下雅佳実・石田ゆき 2022 「看図アプローチを取り入れた成人看護学実習－術後看護における“気づき”への第一歩－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』13号 pp.19-33
- 石田ゆき 2021 「看護教育看図アプローチ研究会『連続開催』報告－2021年3月21日・23日 by Zoom－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』7号 pp.33-42
- 鹿内信善 2015 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方－看図アプローチで育てる学びの力－』ナカニシヤ出版
- 鹿内信善編著 2010 『看図作文指導要領－「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン－』溪水社
- 鹿内信善編著 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち・看図作文レパートリー』ナカニシヤ出版
- 田中伸子 2019 「なぜ看図アプローチなのか－協同学習ツールとしての意味－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1号 pp.16-20
- 田中伸子 2022 「看図アプローチと看図作文の可能性－『発見』と『疑似体験』の授業－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』11号 pp.3-13
- 山下雅佳実 2021 「看護学と保育学の多職種連携教育プログラム開発に向けてのプレ実践－『ビジュアルテキスト持ち寄り型看図アプローチ語りカフェ』－」『全国看図アプローチ研究会研究誌』8号 pp.41-49
- 山下雅佳実 「長崎県央看護学校『看図アプローチ研究会』の新たなはじまり」『全国看図アプローチ研究会研究誌』11号 pp.20-26
- 山下雅佳実・田中伸子・渡邊令子・中野真由美・吉野千春・隈上貴子・中村加代子・西村優子・山口奈津子・藤井愛美・丹羽佳世 2021

「『看図を探せ!!』－長崎県央看護学校第13回
看図アプローチ研究会報告－」『全国看図ア
プローチ研究会研究誌』5号 pp.46-53

注1 本研究の一部は日本協同教育学会 第18回
大会において発表した。

注2 本研究の一部に科学研究費 22K02249 を
あてた。

注3 本論文は山口奈津子の文責のもとでまとめ
たものである。

2022年12月22日受付

2022年12月29日受理